

平成 28 年度事業報告



公益財団法人 知床財団

目 次

公	益	事	業
公 1 : 普及対策系事業			
I.	野生生物との共存のための啓発業務		2
1.	地域向け環境教育		2
2.	学習教材開発・運用業務		2
II.	国立公園利用者サービス業務		3
1.	ビジター向けインフォメーション・環境教育業務		3
2.	知床自然センター内外刷新業務		4
3.	ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務		5
III.	情報発信・賛助会員拡大業務		5
1.	地域向け情報発信		5
2.	一般向け情報発信		6
3.	ホームページ等インターネットを活用した広報の強化		6
IV.	賛助会員運営業務		6
1.	会報誌の発行		6
2.	賛助会員の管理		6
3.	寄付、賛助会員拡大推進		6
V.	人材育成業務		7
1.	ボランティア活動推進業務		7
2.	人材育成・就業体験受入業務		7
公 2 : 施設管理系事業			
I.	知床自然センター等管理運営業務		8
II.	羅臼ビジターセンター管理運営業務		8
III.	ルサフィールドハウス管理運営業務		8
公 3 : 調査研究系事業			
I.	独自調査研究事業 (独自事業)		9
1.	エゾシカ個体群の動態に関する調査業務		9
2.	幌別ー岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務		9
3.	ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務		9
4.	知床の暮らしと生き物を守る電気柵維持管理等業務		9
5.	希少鳥類などの長期モニタリング業務		10
6.	海生哺乳類モニタリング業務		10
7.	水域における生物群集モニタリング業務		10
8.	学術的な交流と成果公表に関する業務		10

9.	知床 GIS データベースの作成.....	11
II.	斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業.....	12
1.	ヒグマ対策業務.....	12
2.	自然環境管理対策業務.....	12
III.	野生生物管理事業.....	13
1.	知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務.....	13
2.	エゾシカ生息密度操作関係業務.....	13
IV.	遺産地域調査事業.....	14
1.	エゾシカの採食による植生への影響調査業務.....	14
2.	エゾシカ航空カウント調査業務.....	14
V.	科学委員会等運営事業.....	14
VI.	自動車規制管理運営事業.....	15
VII.	知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業）.....	15
VIII.	知床五湖関連事業.....	16
IX.	普及啓発事業.....	16

公 4：森林再生系事業

I.	しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務（受託事業）...	17
1.	森林再生推進業務.....	17
II.	しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業（独自事業）...	18
1.	普及推進業務.....	19

収	益	事	業
---	---	---	---

収 1：収益事業

I.	販売・有償貸出業務.....	20
II.	研修実習受入業務.....	20

他 1：その他の事業

I.	JBN 業務.....	23
----	-------------	----

法	人	会	計
---	---	---	---

法 1：財団法人管理運営事業

I.	財団法人管理運営業務.....	23
----	-----------------	----

公	益	事	業
---	---	---	---

公 1：普及対策系事業（独自事業）

I. 野生生物との共存のための啓発業務

1. 地域向け環境教育

野生生物との共存への理解を推進する教育

知床ウトロ学校全校児童・生徒を対象としたクマ授業を実施しました。また、知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、知床財団職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を開催しました。4回目を迎えた今年度の会議では、一般住民の方でも比較的容易に導入、活用可能なヒグマ対策グッズとして簡易電気柵を持ち込み、実演を交えて紹介しました。

羅臼町では、2015年度から幼小中高一貫教育のカリキュラムが確立されました。今年度、ヒグマ授業は幼稚園と小学3年生、小学5年生、中学1年生、中学3年生、高校2年生の全生徒を対象に各学校に出向き、計11回の授業を行いました。羅臼町連合町内会や昆布部会の方々へ向けたヒグマ対策に関する説明会をそれぞれ1回ずつ実施しました。

地域の自然への関心を高める教育

ウトロ学校の総合的な学習の時間では、遠足対応をはじめ、知床の観光や外来種、「しれとこ100平方メートル運動」、昆虫、野生動物へのエサやりやゴミの不法投棄をトピックとした授業を実施しました。

9月には斜里中学校1年生を対象に、世界遺産学習の一環として「しれとこ100平方メートル運動」について現地説明を行いました。

12月に朝日小学校6年生を対象に総合的な学習の一環として知床の自然保全と観光について授業を行いました。

羅臼中学校2年生の総合学習の時間では、「ふるさと調べ学習」の講師として知床の生き物に関する授業を2回実施しました。

羅臼町公民館などと共に羅臼町内の小学生を対象にして実施している知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）は、5月から2月までの間に計10回の講座を企画しました。今年度で2年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も、引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様で、羅臼とウトロでそれぞれ実施し、6月には羅臼から船に乗り知床岬へ出かけてゴミ拾い活動を行いました。7月には、ウトロのチャシコツ崎で浅瀬の生き物を学習しました。

2. 学習教材開発・運用業務

今年度、ヒグマ学習教材トランクキット1号機の貸出実績は9件、2号機の貸出実績

は3件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

今年度は、新たに海獣版のトランクキットが完成しました。キットの中には、実物大のシャチを描いた大判の布や、アザラシ類の毛皮、かつてアイヌの人々が使用していた回転式離頭銛の模型など、知床の海獣類に関する小物を詰め込んでいます。今後、職員の講演や施設でのレクチャー時に活用していきます。

Ⅱ. 国立公園利用者サービス業務

1. ビジター向けインフォメーション・環境教育業務

知床自然センター

知床自然センターは約半年間にわたる全面改修工事を経て、4月20日にリニューアルオープンを迎えました。今年度のインフォメーション・環境教育事業は、大きな変更を伴ったため、次項のリニューアルアクションプランの中で一体的に実施しました。

羅臼ビジターセンター

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥行きのある自然解説を行うため、ミニレクチャーを実施しました。今年度は8月から9月の繁忙期に計13回実施し、121人の方にご参加いただきました。

レクチャーの内容は、知床の海の生き物に関することやヒグマの話、クワガタや羅臼昆布についてなど、バラエティー豊かな内容で実施しました。

ルサフィールドハウス

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどのついてお話しするとともに、フィールドハウスの2階から観察できる鯨類のことなどを解説しました。

知床五湖フィールドハウス

知床五湖利用調整地区の指定認定機関として4月から10月まで職員が常駐しました。遊歩道のコンディションや自然情報等のリアルタイム情報を収集し、発信しました。特に、外国人対応として、展示物や案内物の英語表記やピクトグラム化を強化しました。また、ヒグマ活動期には、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者へのサービスを継続しています。

2. 知床自然センター内外刷新業務

過年度から継続してきた検討をもとに、具体的なアクションプランを立案し、係横断で編成した作業チームにおいて実施しました。リニューアルにあたっては「フィールドを知り、楽しむための国際ビジターセンター」をコンセプトに、国立公園のフィールドを楽しむための「拠点機能」とゆっくりと休憩し楽しめる「滞留機能」の強化を目標としました。

利用者サービス・情報提供・館内展示・映像ホール・レクチャー等の運用等について、施設の改修と併せたサービス面の刷新に向けた取り組みを斜里町と連携を密にしながら実施しました。

①インフォメーションカウンターの新規立ち上げ

フィールド情報の受発信と外国人利用者への対応を核としたインフォメーション機能の充実を図りました。リアルタイム情報の受発信の強化のため、twitter 等の SNS の運用を継続したほか、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道等の開閉・運用等の状況が一覧できるポータルサイト「知床情報玉手箱」を運用し、館内サイネージに取り入れました。また、夏期繁忙期にはシャトルバスやスカイバスなどの発券サービスを行い、チケットの発券と共に情報提供を行う仕組み作りを構築しました。

②レクチャールームの活用と普及啓発事業の実施

新設されたレクチャールームにおいて、定時レクチャーを通年行いました。ヒグマの活動が活発となる上半期においては、「日刊・知床ヒグマ情報」を毎日実施し、最新のヒグマ情報や安全対策を伝える取り組みを行い、総計 1,263 名の参加がありました。また、知床の自然の魅力や財団の取り組みを分かりやすく伝える「知床財団 スタッフトーク！」は通年で毎日 3 回設定し、3,322 名の参加がありました。実施時には、併せて財団活動の PR も行い、136,758 円の募金を集めています。

財団の活動を伝え、支援を広げる活動として、活動紹介コーナーを拡充し、支援企業の掲示等を新たに追加しました。募金箱の設置をし、今年度は総計 201,543 円の募金を集めることができました。

③映像ホール運用の抜本的見直し

映像ホールにおいては、上映時間や入館管理システムなどの運用体制の見直しに着手しました。上映プログラムについてはオリジナル作品「四季知床」に加え、はじめて外部配給作品を導入し、特別上映プログラムとして 1 日 2 回程度の上映を通年で行いました。特別上映作品である BBC earth 制作の「小さな世界はワンダーランド」は、総計 2,464 人の視聴があり、全体実績の 15%を占めています。

また、スクリーンの張替えが行われ、多様なコンテンツの上映が可能となったことから、大型スクリーンを活用した映像イベントの実施など、映像ホールの多目的利用に向けた取り組みが始まりました。

④常設展示・企画展示室の立ち上げと運用

館内展示について、従来の展示物の整理を行い、テーマや導線に沿った再配置や外国語表記に取り組みました。柱展示は従前通りの取り組みを継続しています。新設された企画展示室においては、2回の企画展示を実施したほか、ミニギャラリーでの写真展も継続し、5回の写真展を行いました。いずれも、外部機関や関係者との連携により企画制作しており、幅広いテーマを取り扱っています。

⑤広報・記念イベントの実施

リニューアルを広く広報するため、リーフレットを新規に制作しました。知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続しました。同たよりは、A4サイズ白黒で、ラミネート加工したものをウトロの宿泊施設および観光関係施設（全 27 施設）に配布しており、宿泊者への情報提供に役立てていただいています。リニューアル記念として、3回のイベントを行いました。地域住民を対象としたオープン前の内覧会では、新規映像プログラムの試写やフードコートでの新メニュー無料提供等を行い、200名を超える来場者がありました。5月には知床自然センターオープニングフェスと題し、知床でのアウトドア活動をテーマとしたイベントを2日間に渡り実施し、アウトドア映画祭の作品上映をメインに、ゲストトーク、アウトドアグッズの販売、フードコートでの飲食提供等を行い、221名の来場者を集めています。また秋には写真家の石川直樹氏をお招きし、大型映像ホールを活用した写真トークイベントを行いました。

3. ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

前年度に引き続き、ルサフィールドハウスの知名度向上と幅広い層の方々に利用しただくことを目的として、「ルサ・カフェ」を実施しました。今年度は9月28日～10月3日の計6日間に、215名の方にカフェを利用していただきました。2年目となり、前年度に引き続きのリピーターの利用者もあり、館内はとて面白い雰囲気でした。飲み物と一緒に提供するお菓子や軽食も利用者の方々の意見を取り入れて工夫しています。

III. 情報発信・賛助会員拡大業務

1. 地域向け情報発信

知床財団の活動に対する理解と協力を得るために、地元やそのほかの地域に向けて財団活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度より知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。今年度は2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町 5,050 部、羅臼町 2,000 部）。

2. 一般向け情報発信

会報誌 SEEDS を活用して、観光客を対象とした知床財団の PR や賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011 年の夏より、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、SEEDS を町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。

協定先の旭川市旭山動物園に設置していた「しれとこシカ絵巻」は、前年度一新し、設置から 1 年が経過しましたが、その後退色も特段見られず、引き続き掲示されています。また、図書館には賛助会員募集のパンフレットや SEEDS のバックナンバーファイルが設置されており、知床財団活動の PR、賛助会員獲得にむけた広報にご協力いただいています。

3. ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を継続して行っています。前年度導入した SNS (Social Network Service) のひとつ Facebook を今年度も広報媒体として活用しました。知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られるブログを都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容、さらにオリジナル商品の紹介についても随時アップロードしました。

IV. 賛助会員運營業務

1. 会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報紙「SEEDS」を 4 回発行、会員の皆様や関係機関の方に発送しました。

2. 賛助会員の管理

今年度の新規の入会状況は、年個人会員 75 件（前年度 99 件）、個人終身会員 12 件（前年度 11 件）、年法人会員は 3 件（前年度 9 団体）、法人特別年会員は 1 件（前年度 2 団体）でした。個人会員、法人会員は前年度を下回ったものの、個人終身会員は、前年度を上回る結果となりました。

3. 寄付、賛助会員拡大推進

知床財団の活動をひろく一般の方へ PR し寄附拡大へとつなげるため、毎年札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに参加しました。また、羅臼町の知床開きに出展し地元住民に対し知床財団が行なっている活動内容の普及に努めました。

会員サービスの一環として、賛助会費の自動引き落としシステムを 2017 年 2 月に導入しました。これは会員の方が指定の銀行口座またはクレジットの引き落とし口座から会費を毎年自動的に引き落とす制度です。今年度は、銀行口座引落しの申し込みが 19 件、クレジットによる引落しの申し込みが 42 件ありました。

今年度、個人寄附としてお寄せ頂いた金額は 795,368 円となりました。法人寄附として 8 社から総額 9,442,244 円の寄附をいただきました。

知床自然センター・羅臼ビジターセンターの館内展示や知床財団ホームページでは、賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れました。

V. 人材育成業務

1. ボランティア活動推進業務

昨年度末でのボランティア登録者数は 192 名、その内の 47 名の皆さんが「100 平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼ビジターセンターを拠点にした展示物作成作業などに参加してくださいました。年齢層は 10 代から 70 代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は 54 日間、のべ参加人数は 147.5 人日となりました。

2. 人材育成・就業体験受入業務

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。主に野生動物や環境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて 11 教育機関よりのべ 17 名の受け入れを実施しました。

公 2：施設管理系事業（受託事業）**I. 知床自然センター等管理運営業務**

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収等の業務を行いました。今年度の知床自然センター入館者数は 184,991 人で、前年度比 128%となりました。リニューアルの効果もあり。過去 5 年間で最高の入館数となっています。また、映像展示館入館者数は 14,203 人（前年度比 113%）であり、改修工事により下半期が閉館していた前年度は上回っているものの、長期的な漸減傾向には歯止めがかかっていません。

そのほか、知床自然教育研修所の維持管理を行いました。今年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に 1,219 人泊の利用があり、482,400 円を施設利用料金として徴収しました。

II. 羅臼ビジターセンター管理運営業務

羅臼ビジターセンターの来館者数は 41,283 名で、過去最多の来館者があった前年度比は 99%となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を 5 回、特別展示を 6 回、例年どおり開催しました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者を中心にのべ 23 名、300 泊の利用がありました。

III. ルサフィールドハウス管理運営業務

ルサフィールドハウスは前年度より利用者の少ない冬期に閉館することとなり、今年度も開館期間は 4 月から 10 月の 7 ヶ月間となりました。来館者数は 6,184 人で、前年度比は 84%でした。今年度は 8 月の豪雨による災害の影響もあり、道路閉鎖が続いたことが大きな要因であると考えられます。また、これまでどおり知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーしました。

公 3：調査研究系事業

I. 独自調査研究事業（独自事業）

1. エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

知床半島内の重要なエゾシカ越冬地の一つとなっている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計 4 回実施しました。調査日はいずれも可猟期間外（休猟期間内）に設定しました。シカの確認頭数は 3 月下旬が最多となり、121 頭でした。最大確認頭数は 2013 年度が 472 頭、2014 年度が 238 頭、前年度が 227 頭でしたので、同地区のシカは徐々に減少している可能性があります。また、2014 年度の冬に GPS イリジウム首輪（酪農大より借受）を装着し、前年度のうちに首輪の電池が切れてしまっていたメス成獣 2 頭の再捕獲・首輪回収を試みました。それぞれ放獣地点周辺（幌別地区、オシンコシン地区）で生存していることは、直接目撃や自動撮影カメラで確認できました。しかし冬期に囲いわなや箱わなの近くまでは来ていたものの、わな内に入らず、前年度に引き続き再捕獲できませんでした。

2. 幌別－岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

今年度は秋にドラム缶式ワナ 1 基によるヒグマの生体捕獲を試みましたが、捕獲に至りませんでした。また、外見による個体識別を確定させるため、ヒグマ 2 頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオブシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北大獣医学部との共同）。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨 21 個体分（斜里 17・羅臼 1・標津 2・清里 1）の標本を作製しました。歯の薄切標本による年齢査定（年輪の読みとり）も 25 個体分について実施しました。

3. ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオブシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。また自由に野外を歩き回っている 4 頭のヒグマ（メス成獣）を麻酔銃で生け捕りにし、GPS 首輪の再装着、交換及び回収を実施しました。2016 年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ 18 頭には、ルシャ生まれの個体は含まれていませんでした（北大獣医学部・知床博物館との共同事業）。

4. 知床の暮らしと生き物を守る電気柵維持管理等業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこでヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。今年度は文吉湾では、冬の間撤去していた電気柵を 5 月に再

設置しました。ヒグマは電気柵を忌避した一方で、柵の無い海中に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が再び観察されました。

羅臼町では、2011年から5年間にわたりダイキン工業株式会社様からの寄付を受けた羅臼町が順次電気柵の設置を進めました。知床財団はこれら電気柵の設置を羅臼町からの業務委託を受け実施してきました。今年度からは、ダイキン工業株式会社様から当財団への寄付金事業として電気柵の設置と撤収および維持管理しました。また併せてヒグマが民家近くの藪に潜まないように、フキやイタドリの刈り払いも町内各所で行いました。

5. 希少鳥類などの長期モニタリング業務

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシ長期モニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営をしました。知床財団が調査担当となっている営巣木については、当年の営巣の有無や雛数等について情報収集しました。また、羅臼町内で糞や騒音等が問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査を6～7月に10回の調査を行ったほか、観光船による餌やりという課題を抱える海ワシ類については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、観光客の満足度等について調べ、関係団体等に結果報告をしました。

6. 海生哺乳類モニタリング業務

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのカウント調査を継続しました。今年度冬期の最大確認頭数は、2017年1月18日の105頭でした。ドローン（無人航空機）による遊泳群の上空からの撮影も前年度に引き続き実施し、定点からのカウント値の精度確認や、群れに含まれている標識個体の確認に威力を発揮しました。今年度の冬期に確認した標識個体は計12頭で、すべて中部千島で出生した個体でした。また12頭のうち7頭（58%）は、前年度以前にも知床で確認された個体でした。

7. 水域における生物群集モニタリング業務

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、前年度に引き続き各種生物を収集しました。また、2012年に国後島と択捉島で採集した魚類と貝類についても同定を進めました。

8. 学術的な交流と成果公表に関する業務

学会発表

○白根ゆり（北大）、山中正実、中西将尚、石名坂豪、能勢峰、葛西真輔、白柳正隆、増田泰（知床財団）、釣賀一二三、間野勉、藤本靖、長田雅裕、佐鹿万里子、坪田敏

男, 下鶴倫人 知床半島におけるヒグマの移動様式の解明. 日本哺乳類学会 2016 年度大会 筑波大学 (つくば) 2016 年 9 月

○小川洋平 (知床財団)、知床財団羅臼地区事業係、羅臼町役場 羅臼町における電気柵設置とその効果について. ヒグマフォーラム 2016. 遠軽町 2016 年 10 月

学会ポスター発表

○邑上亮真 (農工大)、能勢峰 (知床財団)、石名坂豪, 増田泰, 中西将尚 (知床財団),
岡田秀明 (斜里町役場), 山中正実 (知床博物館), 梶光一 (農工大). ニホンジカ (*Cervus nippon*) の個体群変動を示す生態的指標としての体重・体サイズの評価. 日本生態学会 2017 年 3 月

学術誌

○Erika Abe, Kazue Ohishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Kei Fujii, Tadashi Maruyama
Serologic evidence of *Brucella* infection in pinnipeds along the coast of Hokkaido, the northernmost main island of Japan.
Microbiology and Immunology 61: 114-122.

○Noriko Azuma, Nadezhda I. Zaslavskaya, Tomoyasu Yamazaki, Takahiro Nobetsu, Susumu Chiba Phylogeography of *Littorina sitkana* in the northwestern Pacific Ocean: evidence of eastward trans-Pacific colonization after the Last Glacial Maximum
Genetica (in press)

紀要・報告書・商業誌

○船坂徳子, 石名坂豪 (2017) 海棲哺乳類の保全・管理のための調査・解析手法【7】.
海洋と生物 39(2): 163-174.

知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計 9 回開催しました。知床財団職員や関係機関等を含め、のべ 180 名ほどの参加がありました。

9. 知床 GIS データベースの作成

知床半島の自然情報、位置情報をキーとしてあらゆるデータを取りまとめる GIS データベース (ジオインフォしれとこ) の構築を進めています。今年度は、100 平方メートル運動地の植生図、シカの生息密度など各業務で作成しているデータを公開するテストサイトを作成し、データ公開の準備を進めました。

Ⅱ. 斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業

1. ヒグマ対策業務

斜里町

今年度のヒグマ目撃件数は 1,035 件、対策活動が 733 件で、近年では 3 番目に目撃件数が多い年でした。ヒグマによる人身事故は発生しませんでした。人なれしたヒグマが車に肢をかけた事例、釣り人の自転車がヒグマに壊された事例、釣り人の荷物が荒らされた事例など、人身事故につながりかねない危険事例（ヒヤリ・ハッと事例）は複数件発生しました。夏以降、ヒグマの出没は基本的に減少しましたが、幌別川の河口では釣り人とヒグマとのトラブルが多発したこと、緊急の立入禁止措置や、行政関係者と釣り人の話し合いなどを経て、釣り人の自主的な釣り場管理が行われました。知床財団は、釣った魚の残滓管理のためのヒグマ対策ゴミ箱の設置やその管理などで協力しました。斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は 17 頭でした。秋の林道沿いでの狩猟捕獲が 6 頭と比較的多かったことが特徴的でした。

羅臼町

今年度のヒグマ目撃件数は 260 件、対策活動は 138 件で、いずれも 7 月に最多となりました。260 件の目撃件数のうちの 106 件は、知床岬を含む地区での目撃で、2014 年から本格的に始まったヒグマ観察を目的とした小型船によるクルーズツアーからの報告がほとんどでした。また有害捕獲頭数は、7 月に岬町で水産加工場の残滓を荒らしたオスの 1 頭のみでした。有害捕獲頭数の記録が残る平成 5 年以降では、最少だった平成 9 年の 2 頭よりも少ない 1 頭であり、最少記録を更新しました。

2. 自然環境管理対策業務

斜里町

ゴミの不法投棄は 18 件あり、多くは食品の包装や容器などでした。9 月には古い塩鮭が不法投棄されていた事例が国立公園の内外両方で各 1 件ありました。キツネなど野生動物への餌やり行為は、直接職員が目撃して公園内で利用者指導を行った事例だけでも 2 件あり、依然として継続的な普及啓発が必要な状況です。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお前年度に引き続き、今年度もフンベ川河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は 32 件、傷病鳥獣への対応は 20 件でした。

羅臼町

町内各地区で実施した計 51 回のパトロールでは、不法投棄の確認及び利用者への指導等の対応を行ったものが 10 件ありました。

傷病鳥獣の対応は 29 件ありました。そのうちシカ除けのために設置された漁網に絡まって動けなくなったシカなどへの対応は 5 件でした。希少鳥獣への対応はオジロワシ 3 件とクマタカ 1 件の計 4 件ありました。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も継続的に行っており、5 月に岬町でセイヨウオオマルハナバチの女王 1 頭を捕獲したほか、知床岬赤岩地区では 10 月に他目的で設置された自動撮影カメラにアライグマ 1 頭が撮影されたという衝撃的な情報が得られました。エゾシカのライトカウント調査は、春期に 5 回行いました。秋期にも実施予定でしたが、8 月から 9 月にかけての豪雨によるがけ崩れにより、調査区間の主要エリアが通行止めとなったため、実施できませんでした。

Ⅲ. 野生生物管理事業

1. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。2013 年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、監視小屋周辺にカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等のカメラマン対策を、引き続き実施しました（3 年目）。また公園利用者の不適切な行為（キツネへの餌やりなど）に対する各種指導や、傷病鳥獣の保護収容を行いました。

2. エゾシカ生息密度操作関係業務

今年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを 10 基、箱わなを 7 基、くくりわなを約 13 個稼働させ、流し猟式シャープシューティング（道路を閉鎖しての銃捕獲）を 1 ヶ所、遠距離狙撃等を斜里町内の国有林 3 ヶ所で行ったほか、羅臼町側で船を使った捕獲を半島先端寄りで行い、厳冬期にはヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。3 月末までに囲いわなで 115 頭（岩尾別大型仕切柵：17 頭（春 5 頭、冬 12 頭）、幌別川河口：19 頭、ウトロ東：19 頭、ウトロキャンプ場：10 頭、フンベ：3 頭、弁財崎：13 頭、オシンコシン①：11 頭、オシンコシン②：15 頭、マコイ沢：1 頭、ルサ：7 頭（春 5 頭、冬 2 頭））、箱わなで 37 頭（岩尾別川河口：18 頭、幌別：17 頭、金山川：2 頭）、くくりわなで 11 頭（ルサ）、シャープシューティングで 49 頭（春 ルサ-相泊：23 頭、冬 岩尾別川河口：26 頭）、モバイルカリングで 6 頭（オペケプ川）、狙撃で 6 頭（遠音別川）、船舶捕獲で 38 頭（相泊以北）、さらに知床岬で 41 頭（春 7 頭、冬 34 頭）の、計 303 頭を捕獲しました。なお、羅臼町側の国立公園内での捕獲は、8 月の台風による土砂崩れの影響で、前年度までとは大幅な方針変

更を余儀なくされました。

IV. 遺産地域調査事業

1. エゾシカの採食による植生への影響調査業務

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。今年度知床財団では、知床岬地区およびルシャ地区の調査をサポートしました。また、ルシャ地区に5月に船で上陸して麻酔銃で4頭のメスジカを捕獲し、GPS首輪を装着しました。2014年度にGPS首輪を装着した10頭と合わせた計14頭のメスジカについて、行動範囲等を調査しました。特定の1頭だけが、前年度の7月下旬と同様、今年度は6月に羅臼側へ一時的に移動しました。が、基本的に14頭すべてが1年中、ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。

2. エゾシカ航空カウント調査業務

知床半島の世界遺産地域内限定でエゾシカの航空カウント調査（ヘリカウント）を実施しました。調査区10区画で139群747頭のエゾシカを発見しました。エゾシカの発見頭数は、全体的に横ばいまたは減少傾向でした。また航空カウントの見落とし率を算出するため、幌別地区（知床自然センター付近）の針葉樹の多い場所で森林内のエゾシカの追い出しカウントを、地元の行政やガイドさんにもご参加いただいて実施しました。針葉樹の遮蔽効果は大きく、今年度の上記の場所での見落とし率は84.4%でした。

V. 科学委員会等運営事業

知床世界自然遺産地域を適切に管理するために、科学的な見地からの行政への助言が科学委員会会議やその附属会議によって行われています。知床財団は科学委員会本体会議（8/4 羅臼町、2/21 札幌市）とエゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ会議（6/28、10/7、1/12 すべて釧路市）の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレター作成などを担いました。また、今年度は斜里、羅臼および標津の3町を対象としている「知床半島ヒグマ保護管理方針」の更新に向けた検討年度にあたるため、各種データの収集やとりまとめを行い、またこれまでの方針の評価や次期管理計画を検討・策定する3回の会議（6/10、9/15、1/19 すべて札幌市）や各町での住民説明会の運営を行いました。さらに、知床世界自然遺産

地域を含む日露隣接地域全体の自然環境や生態系の保全に資することを目的として開催されている日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進委員会会議（8/3 羅臼町、2/22 札幌市）についても、同様に運営事務局を担いました。

VI. 自動車規制管理運営事業

2016 年度もカムイワッカ地区は、マイカー規制期間と自由通行期間が交互に切り替わる利用体制となり、現地での混乱を避けるため関係者間の調整が必要でした。同地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、運営の円滑化のためにバス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。

リニューアルした知床自然センターにおいては、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、インフォメーション業務と一体的なチケット販売体制を構築しました。

VII. 知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業）

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。適正利用・エコツーリズム検討会議（世界遺産科学委、利用適正・エコツーリズム WG と地域連絡会議、利用適正・エコツーリズム部会の合同会議）では、知床エコツーリズム戦略の本格的な運用が始まっています。地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、知床財団もこうした取り組みに参画しています。

知床財団では、前年度に同会議で提案した「外国人旅行者向け情報発信の強化」について、検討部会を組織し事務局を担いました。また、現地着地後の外国人旅行者を対象に、斜里・羅臼の両町の観光コンテンツをつなぐことをコンセプトとした情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」を構築し、運用しました。このサイトは国立公園内の施設、観光船、遊歩道などの開閉、運用等の情報が一覧できるポータルページで、観光案内施設や地域ガイド等の間で試験的な運用が行われました。

知床五湖では、新たな利用システムを広く地域の皆さんに体験してもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を今年度も継続して実施しました。ローカル割引キャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供しました。今年度は、前年度 42% 増となる 166 組 436 名の参加がありました。

H27 年度から 2 年目となる「知床スカイバス」事業においては、実行委員として事業に参画し、ホロベツ地区の利活用につながるバス運行のあり方を提案しました。知床

自然センターでは、チケット販売の取り組みも行っています。スカイバス事業では、7,782名乗車がありました。

VIII. 知床五湖関連事業

2011年より開始した知床五湖の利用調整地区制度は6年目を迎えました。新制度はヒグマに関するリスク管理体制、観光地における認定ガイド制度など、様々な面で先進的な取り組みとして注目を集めています。知床財団は制度運営の要となる指定認定機関(環境大臣指定)として制度全体の運用を担っています。

ヒグマ活動期の実績は好調で、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中1万人を超える利用者がガイドツアーに参加しており、知床五湖がエコツアーの発信地となりつつあります。通年の立ち入り認定者数は6万5000人を超えており、8月には荒天による知床五湖園地閉鎖があったものの、大きな混乱はなく安定的な運用が実現できました。

IX. 普及啓発事業

地元住民を対象に知床世界自然遺産地域の保護管理や自然の魅力等を題材とした講座の企画・運営を行いました。斜里町で開催した2回の講座はいずれも流水をテーマとし、1回目は北見工業大学の舘山一孝准教授をお招きし、「流水を通じて学ぶ地球環境と地域防災」と題した講演を開催しました。2回目は、フィールドに出て流水を学んでもらうことを目的とし、紋別海上保安庁のご協力のもと宇登呂灯台に登って流水観察を行いました。

羅臼町では、1回目の講座は同じく流水をテーマとして舘山准教授に「流水がもたらす恵みと災害」と題して羅臼町の基幹産業である漁業にちなんだ内容でお話いただきました。2回目の講座は、知床で実施しているエゾシカの有害捕獲をテーマとして捕獲の目的や現状、成果をお話したのちにエゾシカの有効活用を学ぶため、釧路市にある「Restaurant & Community Iomante」の舟崎一馬シェフをお招きしてシカ肉料理教室を開催しました。

公 4：森林再生系事業

I. しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務 (受託事業)

斜里町主催「しれとこ 100 平方メートル運動」は開始から 39 年、「100 平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みを始め 19 年が経過しました。2 年後の平成 30 年度には、本格的な森づくりの開始から節目の 20 年を迎えることから、次期 20 年間の目標立案に向け、より具体的な検討を行う段階になっています。大きな節目を迎えるこの取り組みの中で、知床財団は、森づくりや運動地公開など 100 平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

1. 森林再生推進業務

森林再生作業

春から秋にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高 6 メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。それらの作業は全て多くのボランティアの皆様にお手伝いをいただきながら進めました。

また、今年度は、次の 20 年間に向け、新たな試みにも着手しています。これまで広葉樹の苗木を植栽する場合は、必ずエゾシカ対策として防鹿柵の中に植えるか樹皮保護ネットを巻きつけるなどしていましたが、近年、運動地の一部では、エゾシカ捕獲の効果によるシカの生息密度の低下が見受けられ始めています。そこで、防鹿柵や樹皮保護ネットを用いない森づくりの手法検討の一環として、5 月に中型（樹高 3～6 メートル程度）の苗木 20 本を防鹿柵外へ樹皮保護ネットを巻かずに植栽しました。

その後の経過観察の結果、夏場にかけて 6 本の苗木がシカの樹皮剥ぎを受けたことを確認しました。樹皮剥ぎの程度は、直ちに生死につながるほどではありませんでしたが、シカの採食の圧力は、依然として高い状況であることがわかりました。引き続き、試験的な柵外への植栽と経過観察を継続し、シカの動向を把握していくとともに、新たな手法の検討も進めていきます。

しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第 37 回知床自然教室」（7 月 30 日～8 月 5 日、参加者 40 名）、「第 20 回しれとこ森の集い（植樹祭）」（10 月 16 日、参加者 81 名）、「第 20 回森づくりワークキャンプ」（10 月 30 日～11 月 4 日、参加者 9 名）の企画・運営を行いました。

「森の集い（植樹祭）」では、防鹿柵外に苗畑で育成したトドマツの苗木（191 本）を植え付けました。一昨年「森の集い（植樹祭）」までは、広葉樹を防鹿柵内に植樹していましたが、各柵内への植栽が完了したことから、前年度より柵の外にシカの嗜

好性の低い針葉樹（トドマツ）の苗木を用いた植樹を行っています。

運動地公開

知床自然センターに隣接する運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の開設運営を行いました。春から秋の開設期間（5～11月末）にこのコースを訪れた利用者数は、1935人（前年度2382人）となっています。また、冬期（1～3月）に開設した二つのコースの利用者数は、合わせて356人（前年度347人）でした。このほか、次年度に迎える100平方メートル運動の40周年に合わせ、「森づくりの道」の新規コース開設に向けた検討にも着手しています。

森林再生専門委員会会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。今年度は、次期20年間の目標策定に向け重要な年になることから、特例として2回の会議を開催しました。知床財団では、最新の林相図を作成し20年前との森林構造の比較を行ったほか、未立木地の森林化を目的としたササ地掻き起し作業の先進事例の視察を行い、それらの結果をもとに、斜里町と検討を重ねながら次期20年間の方針や目標を記載した骨子案を立案しました。

2回の会議では、現状の作業状況の現場確認をしたほか、骨子案をもとに次の20年間の森づくりについて議論を行いました。

運動地広報企画

100平方メートル運動の広報誌『しれとこの森通信 No.19』（A4判カラー12ページ）の企画・編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ『しれとこの森通信ミニ』（季刊）を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っています。

運動ホームページでは、日々の作業状況を発信するとともにイベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。また、今年度は、100平方メートル運動のPR動画3本を作成しホームページに掲載するなど、紙媒体だけではなくインターネットを活用した情報発信にも努めました。

Ⅱ. しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業（独自事業）

本業務は、斜里町主催「100平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動地を含めた運動の普及と推進に、運動の現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

1. 普及推進業務

知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、春から夏にかけての週 3 回、自然復元係の職員が館内に常駐し、「スタッフトーク」などのレクチャーや来館者とのやり取りなどを通じて運動の PR を行いました。また、「職員研修業務」の一環として、春から秋の計 6 回、知床財団職員が実際に運動地を歩く機会を持ちました。

教育機関を対象に行った取り組みでは、ウトロ学校や斜里小学校、斜里高校の受け入れを行い、教室での授業だけではなく、実際に運動地を歩き 100 平方メートル運動の取り組みや開拓の歴史について紹介しました。

合宿形式の森づくりイベントでは、「知床森づくりの日」(5 月)とダイキン工業株式会社様の社員ボランティア(9 月)を開催し、それぞれ 10 名前後の皆様が、知床の森を訪れ、実際の森づくりに関わっていただきました。

そのほか、前年度まで実施していた「岩尾別川再生事業」(ダイキン工業寄付)は、予定の 5 年間を持って終了しましたが、基礎的な調査や生物相復元に関わる研究などは、知床財団の独自事業として、引き続き知床博物館や東京農大など外部機関との連携を図りながら継続して実施しています。

収	益	事	業
---	---	---	---

収 1 : 収益事業

I. 販売・有償貸出業務

知床財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。今年度はオリジナル軍手のデザインと素材を一新したほか、今治タオルを素材としたオリジナルタオルハンカチを製作、販売しました。また、株式会社フェニックス様とのコラボレーション商品、オリジナル T シャツは今年度、計 1,019 枚販売し、T シャツの売上にあわせて 174,000 円のご寄附をいただきました。

オンラインショップ「コムヌプリ」で知床財団個人会員に入会いただいた方は、今年度は、個人終身会員 1 口、100,000 円（前年度 3 口）、個人年会員新規登録 23 口、115,000 円（前年度 27 口）、個人年会員更新登録 58 口、290,000 円（前年度 88 口）ありました。コムヌプリでの個人年会員の更新手続きが前年度から減少していますが、今年度新たに導入したクレジットによる自動引き落としの更新会員登録が増加している実績があることから、更新手続きの利用媒体が移行したものと推測しています。

知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出を行いました。今年度は、ヒグマ撃退スプレー 467 件（前年度 281 件）、フードコンテナ 19 件（前年度 18 件）を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてスライド画像を用いて 20 分程度のレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有料貸出を実施し、長靴 3,891 件（夏：2,667 件、冬 1,224 件／前年度 1,268 件）、双眼鏡 113 件（前年度 69 件）の利用がありました。また冬季において、入館促進および来館者の満足度向上のために実施しているスノーシューは、1,146 件（前年度 585 件）の貸出がありました。

羅臼ビジターセンターにおける長靴のレンタル業務では、49 件（前年度 60 件）の利用がありました。

2016 年度の販売売り上げは 17,693,746 円、レンタルによる売り上げは 3,084,500 円となりました。

II. 研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2016 度は 2,281,400 円の収入がありました。

2016 年度 研修実習・講演・視察対応等受け入れ実績一覧表

	受入区分	日付	対象	内容
研修 実習	羅臼	5月28日	国立大学法人 北見工業大学 工学部 社会環境工学科3年生	知床羅臼のエコツアーに関する学習
	ウトロ	6月21日	JICA (NPO法人 EnVision 環境保全事務所)	生物多様性保全のためのGIS・リモートセンシング を利用した情報システムおよび住民参加型保全
	ウトロ	6月21日	札幌科学技術専門学校 (学校法人総合技術学園)	知床実習2016
	ウトロ	7月14日	JICA (アークコーポレーション株式会社)	世界遺産地域内におけるルール・マナー、 注意事項について
	ウトロ	7月15日	JICA (アークコーポレーション株式会社)	岩尾別川河畔林の再生について
	ウトロ	8月26日	国立大学法人 北海道大学獣医学部	エジンバラ大学生研修
	ウトロ	8月29日	網走市立中央小学校	自然保護と利用のあり方について
	ウトロ	9月2日	酪農学園大学農食環境学群	知床実習
	ウトロ	9月8日	JICA (公益財団法人 はまなす財団)	世界遺産マネジメントと環境
	ウトロ	9月12日	国立大学法人 北海道大学獣医学部 4年生	野生動物学演習
	ウトロ	9月19日	京都大学野生動物研究センター	知床エクスカースョン～知床財団の仕事について
	ウトロ	9月19日	斜網地区子ども会育成者連絡協議会	フレペの滝遊歩道散策
	羅臼	9月21日	羅臼町立春松小学校	熊越えの滝遊歩道散策
	ウトロ	10月10日	知床ネイチャーキャンパス2016 (公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団)	オープンキャンパスエクスカースョン
	ウトロ	11月9日 ～11日	公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会職員 定山溪自然の村 (公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会)	ヒグマ対策研修
講演	羅臼	5月12日	羅臼町立羅臼中学校 2年生	羅臼の身近な鳥類について
	ウトロ	5月26日	北見ことぶき大学	知床の自然と観光について
	羅臼	6月18日	北方四島在住ロシア人訪問団の「住民交流会」 (羅臼町役場企画振興課)	環境問題及び世界自然遺産の取り組みについて
	ウトロ	6月22日	西武学園文理小学校 4年生 (株式会社 JTB関東法人営業埼玉支店)	知床の自然と保全のために私たちができること
	ウトロ	6月22日	岡山県立岡山城東高等学校 (名鉄観光株式会社)	世界遺産の成り立ち、人と野生動物の共生について
	ウトロ	6月29日	北海道立斜里高等学校 3年生	知床自然概論 (しれとこ100平方メートル運動・シカ) 座学
	ウトロ	7月11日	中標津町立計根別学園	エゾシカの生態および捕獲から加工まで
	ウトロ	8月4日	アジア学生交流環境フォーラム	知床の自然保全と利用について
	ウトロ	9月11日	電機連合 (東芝ツーリスト株式会社)	世界遺産知床の生態系の保護と産業振興について
	ウトロ	10月4日	斜里町立斜里中学校 2年生	総合的な学習の時間 (職業講演会)
	ウトロ	10月5日	北海道立斜里高等学校 3年生	知床自然概論 (しれとこ100平方メートル運動・シカ) 現地
	ウトロ	1月18日	特定非営利法人 かかわり教室	知床の動物について
	ウトロ	1月22日	CISEネットワーク運営委員会	北海道の自然と観光について

	受入区分	日付	対象	内容
視察	ウトロ	5月10日	富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合	知床財団およびシカ害等の課題について
	ウトロ	8月23日	鹿児島県議会産業経済委員会	知床五湖の利用と保護の両立の取り組みについて
	羅臼	10月30日	白老町教育委員会	羅臼ビジターセンターの管理運営について
特別講師	ウトロ	6月30日	国立大学法人 北海道科学大学	自然との調和、知床世界自然遺産
	ウトロ	12月14日	東京農業大学 生物産業学部学術情報課程博物館情報学研究室	学芸員養成課程の授業における教材紹介、解説
アドバイザー	羅臼	10月11日	株式会社 矢野経済研究所	ヒアリング対応：知床における パークボランティアについて
	ウトロ	12月2日	いであ株式会社	ヒアリング対応：知床半島における ワシ類の渡りルートについて
	ウトロ	1月17日	株式会社 JTB総合研究所	ヒアリング対応：知床における エコツーリズムについて
	ウトロ	2月2日	株式会社 建設環境研究所	ヒアリング対応：自然環境等インベントリ整備 における成果物のイメージについて
	ウトロ	2月17日	株式会社 野生動物保護管理事務所	ヒアリング対応：クマの分布状況の聞き取り調査
	ウトロ	3月27日	NPO法人 EnVision 環境保全事務所	釧路湿原国立公園エゾシカ捕獲手法検討調査
その他	羅臼	5月31日	株式会社 北海道新聞社	原稿執筆
	ウトロ	8月28日	斜里町農業青年出会いプロジェクト ～今年こそ本気で婚活in斜里～	知床自然センターでの受け入れ企画・実施
	羅臼	10月31日	株式会社 北海道新聞社	原稿執筆
	ウトロ	8月、9月	株式会社 さっぽろ自然調査館	植生調査補助
	ウトロ	12月9日	株式会社 さっぽろ自然調査館	植生指標検討部会委員
	ウトロ	3月24日	NPO法人 知床斜里町観光協会	原稿執筆

他 1：その他の事業

I. JBN 業務

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBN ホームページの運営管理を行いました。年 3 回発行の JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ 783 件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計 75 部を販売しました。ホームページについては、内容の見直しを行い、全面的なりニューアル作業を実施するとともに、日常的な掲載内容の更新を JBN 事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っている NGO 組織です。近年は、クマによる人身事故対策や絶滅の恐れのある四国のツキノワグマ個体群の保全活動に精力的に取り組んでいます。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ 360 名で構成されています。

法	人	会	計
---	---	---	---

法 1：財団法人管理運営事業

I. 財団法人管理運営業務

理事会は、第 1 回理事会（5 月）を開催し、「平成 27 年度 事業報告及び、決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、役員（理事・監事）の改選に伴う名簿の提出、特定費用準備資金の積み立て、賛助会員入会承認」について審議しました。第 2 回理事会（6 月）は、役員改選後、初めての理事会として「代表理事（理事長、副理事長）の選定」を行いました。第 3 回理事会（10 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 4 回理事会（12 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 5 回理事会（3 月）は、「平成 27 年度 決算書の一部修正、評議員等の報酬・費用弁償に関する規程の一部改正、臨時評議員会の招集、就業規則の一部改正、期限付雇用職員就業規程の一部改正、職員給与規程の一部改正、平成 29 年度 事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会（6 月）は、「平成 27 年度 決算報告及び、会計監査報告、任期満了に伴う役員（理事・監事）の改選」について審議しました。決議の省略による臨時評議員会（3 月）は、「平成 27 年度 決算書の一部修正、評議員等の報酬・費用弁償に関する規程の一部改正」について審議しました。

また、年 2 回以上の開催が義務づけられている代表理事と事務局の運営会議を 9 月と 3 月に開催しました。